

「Vision 2030 NEXT 神奈中」の策定について

- 長期ビジョン「Vision 2030 NEXT 神奈中」の策定について
- 神奈中グループのサステナビリティへの取り組みについて
- 神奈中グループ中期経営計画(2021年度～2023年度)の進捗について

2023年4月27日
神奈川中央交通株式会社

The logo for Kanachu, featuring a stylized 'K' symbol followed by the word 'anachu' in a bold, sans-serif font.

「Vision 2030 NEXT 神奈中」の策定について

- 神奈中グループ中期経営計画(2021年度～2023年度)を2021年4月に公表し、取り組みを進めてまいりました。
- 2023年度より、2030年を目標年度とする新たな長期ビジョン(Vision 2030)を掲げ、新中期経営計画(2024年度～2026年度)に向けて始動いたします。

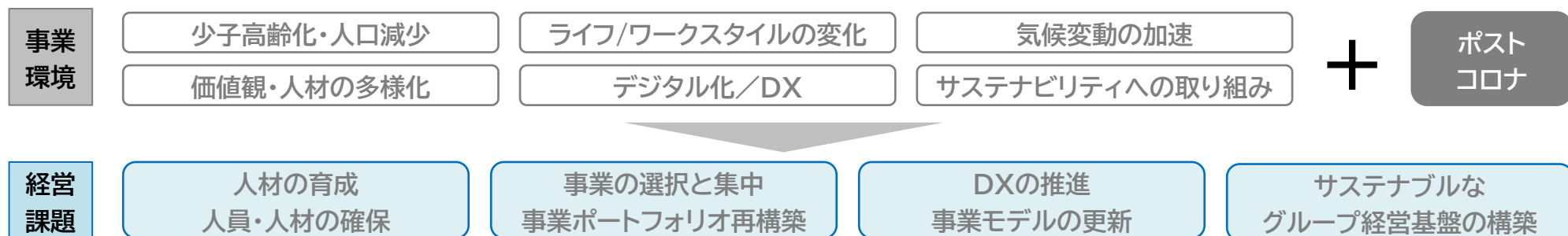
私たちの「ありたい姿」

多様化するお客さまニーズに応え続けるために、時代の変化に柔軟に対応し、新たなサービスの創造に挑戦する企業でありたい。



Vision 2030 NEXT 神奈中 ～地域価値創造型企業にむけて～

私たちは、バス沿線や事業を展開する地域とともに成長するために、時代の変化に柔軟に対応し、常に挑戦し続けることで、地域に新しい価値を創造していく企業に進化します。



Vision 2030 NEXT 神奈中 ～地域価値創造型企業にむけて～

私たちは、バス沿線や事業を展開する地域とともに成長するために、時代の変化に柔軟に対応し、常に挑戦し続けることで、地域に新しい価値を創造していく企業に進化します。

体質変革期(2021年度～2023年度)

重点課題1 持続的な成長を支える基盤づくり

重点施策

(1)費用構造改革の取り組み (2)収益基盤の強化 (3)働きやすい職場環境づくり

重点課題2 モビリティサービスの変革

重点施策

(1)新しいモビリティサービスの創出
(2)「安心」・「快適」の追求

重点課題3 「ゆたかな暮らし」への貢献

重点施策

(1)サステナビリティへの取り組み
(2)ライフ/ワークスタイルの変化に対応したサービスの提供

飛躍期(2024年度～2030年度)

- 未来の神奈中の持続的な成長に繋がる事業創造や拡大を進める。
- カーボンニュートラルやSDGsなど、地域社会の持続可能性に資する長期的な価値を提供する。

当社グループ経営理念「お客さまの『かけがえのない時間(とき)』と『ゆたかな暮らし』の実現に貢献します。」

神奈中グループのサステナビリティへの取り組みについて

- サステナビリティへの取り組みを推進していくための指針として、以下の通り「サステナビリティ基本方針」を策定し、この方針のもとで取り組む5つのマテリアリティを特定いたしました。

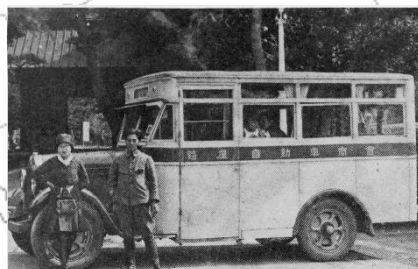
■ サステナビリティ基本方針

私たちは、グループ経営理念のもと、安全・安心なサービス・商品を提供することを通じて、環境負荷の低減や社会課題の解決など地域に新しい価値を創造し、「持続可能な社会の実現」と「持続的な企業価値の向上」を目指します。

■ マテリアリティ

重点テーマ	マテリアリティ	関連するSDGs
安全 安心	安全・安心の追求 安全の確保が事業経営の根幹であることを深く認識して、安全を最優先に事業活動に取り組み、お客さまに常に安心してご利用いただけるサービス・商品の提供を目指します。	
環境 (E)	脱炭素社会への貢献 美しい地球環境を未来の世代に引き継ぐため、事業活動を通じてCO ₂ 排出量削減や資源循環などの環境課題に積極的に取り組み、地域と共に脱炭素社会の実現に貢献します。	
地域 社会 (S)	地域社会との共創 事業活動を通じて地域の暮らしを支え、ステークホルダーと共に新しい価値を創造し、地域社会と当社グループの持続的な成長・発展を目指します。	
人的 資本 (S)	多様な人材が活躍できる職場づくり 企業成長の原動力となる人材の育成や、多様な働き方を実現する職場づくりに取り組み、従業員が働くよこびを実感できる、活気ある企業を目指します。	
ガバ ナンス (G)	ガバナンスの充実 リスクマネジメントの強化やコンプライアンスの徹底など、コーポレート・ガバナンスの充実に努めることで、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指します。	

- 神奈中グループは長年にわたり、グループ経営理念のもと、バス沿線地域を中心に生活に密着した事業を展開するとともに、業界初となる新たなサービスを導入するなど、時代のニーズに即したサービスの提供や事業を通じて社会・環境問題に貢献し、地域社会と共に発展してまいりました。



1921年、相武自動車として船出



経済成長、人口増加で
バス路線を拡大



バスカードシステム、深夜バス、
ちびっこ50円キャンペーンや
環境定期券制度を導入



ノンステップ連節バスを導入して
大量輸送を実現するなど
さまざまな輸送ニーズに対応



経済成長に合わせて、事業の
多角化に着手

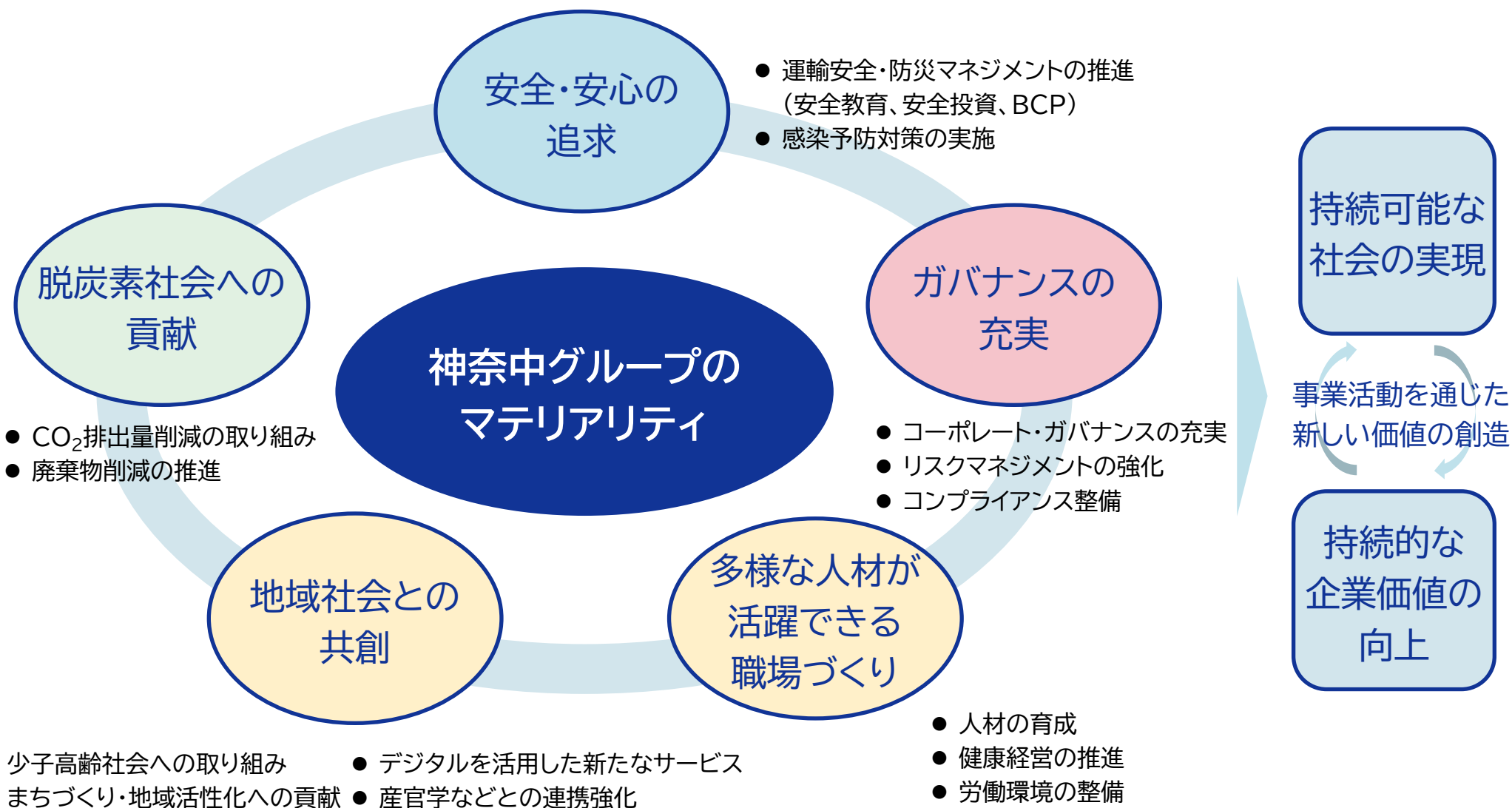


不動産事業、自動車販売事業、ホテル事業、飲食・娯楽事業、
レジャー・スポーツ事業など、地域に密着して事業を展開



太陽光発電設備を設置し、
環境問題に貢献

- お客さまやビジネスパートナーとの共生・発展を念頭に、これまでの長い歴史の中で培ってきたノウハウを活かし、付加価値のあるサービスや商品を提供する企業活動を通じて、地域が抱える社会課題の解決に貢献することで、「持続可能な社会の実現」と神奈中グループの「持続的な企業価値の向上」を目指してまいります。



神奈中グループ中期経営計画(2021年度～2023年度)の進捗

2021年度～2022年度の取り組み

今後の取り組み

費用構造改革の取り組み

■ キャッシュレス化の推進

- 金額式IC定期券を発売開始
- モバイルPASMO定期券を発売開始
 - 2022年3月に通勤・大学生向けに発売開始
 - 2023年3月には中学生・高校生を対象を拡大



金額式IC定期券の発売開始

■ 運行管理業務のデジタル化

- 路線バス 点呼支援システムを導入し、点呼記録簿を自動作成、ペーパレス化



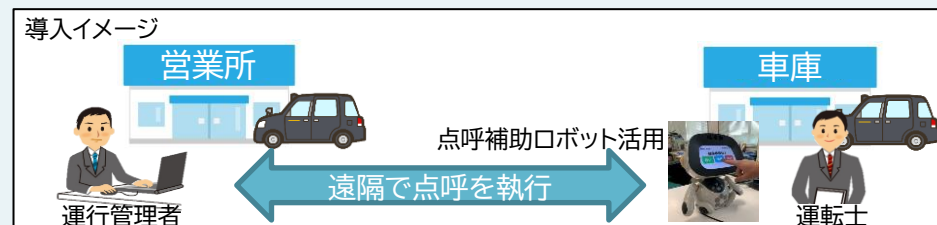
点呼支援システムを活用した点呼執行

■ 組織・運営体制のスリム化

- 路線バス 大和営業所と鶴間操車所を統合
- タクシー 会社再編、営業所統合を実施
- 飲食事業などで不採算店舗の閉店を進め、収支改善

- 「小児IC運賃の一律50円」を開始
(土休日小児現金運賃50円の「ちびっこ50円キャンペーン」を終了)
- 運賃箱・精算機を更新し、現金管理業務を効率化

- 路線バス 乗務日報の自動作成・ペーパレス化
- 点呼補助ロボットや遠隔点呼の導入検討



- 路線バス 営業所と操車所の統合を計画
- タクシー 整備工場の統合や配車センターの集約を計画
- 横浜ビルシステム(株)が(株)オリエントサービスを吸収合併
- グループの不動産管理業務を再編
- レジャー・スポーツ事業で2店舗を閉店するなど、組織・運営体制のスリム化を進め、収支改善を継続

2021年度～2022年度の取り組み

今後の取り組み

収益基盤の強化

■ 賃貸事業の強化

- ・ 神奈川三菱ふそう 旧湘南支店用地(平塚市)の賃貸開始
- ・ アドベル 明石町ビル(平塚市)の賃貸開始
- ・ 神中興業 神中本藤沢物流センター(藤沢市)の賃貸開始



(左) アドベル 明石町ビル
(右) 神中興業
神中本藤沢物流センター

- ・ 路線バス営業所用地の活用や、既存施設等のリニューアルなど、不動産賃貸事業の強化推進
 - 当社茅ヶ崎営業所の一部での賃貸施設計画
 - 神奈中タクシー座間営業所跡地 賃貸施設計画
 - 神中興業 旧本社(藤沢市) 賃貸施設計画 など

■ 分譲事業の強化

- ・ 横浜・湘南エリアを中心に分譲事業を展開
 - プレミスト湘南辻堂を完売
 - Sky Grand 伊勢原八幡台第1期など戸建・宅地分譲を展開



プレミスト湘南辻堂

- ・ 新たに横浜・県央地区に仲介店舗出店
- ・ 新規マンション共同事業の計画推進
- ・ Sky Grand 伊勢原八幡台第2期など戸建・宅地分譲を展開



Grow Living横浜三ツ境

働きやすい職場環境づくり

- ・ 自動車運送事業者の「働きやすい職場認証」を取得
当社、神奈中東・西、神奈中タクシー、神奈中観光
- ・ 業務の見直し、テレワーク環境の整備
働き方改革を推進



自動車運送事業
「働きやすい職場認証制度」

- ・ バス・タクシーなど、自動車運転者を中心に働き方改革を推進
- ・ ダイバーシティ&インクルージョンの推進
 - 女性、障がい者、シニア等が活躍する職場環境の整備などを推進
- ・ デジタル化など将来の事業環境に対応した人材採用と育成



女性運転士の活躍

2021年度～2022年度の取り組み

今後の取り組み

新しいモビリティサービスの創出

■ MaaSの推進

- 宮ヶ瀬湖周辺AIオンデマンドバス実証実験を実施



- MaaSアプリの活用

- 商業施設「湘南T-SITE」利用客へ路線バス無料チケットを発行
- 商業施設と連携した路線バスのサブスクリプションチケットの実証実験を実施



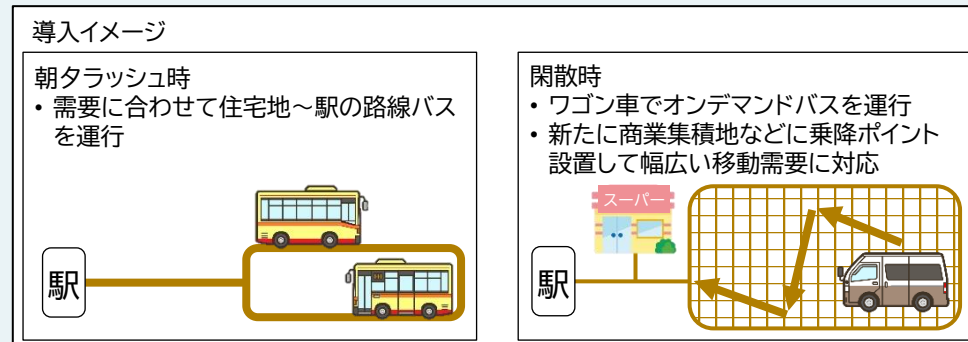
■ 次世代モビリティの創出

- 当社と慶應義塾大学SFC研究所がSFC循環シャトルバスの自動運転化に向けた定常運行を開始



2022年9月には新たに自動運転用塗料「ターゲットラインペイント」を使用開始

- バス路線のオンデマンドバス代替検討



- MaaSアプリを活用した新たなサービスを検討

- 近隣商業施設との連携による新たなサービス

- 慶応大学SFC研究所とともに閉鎖空間での2025年度自動運転レベル4実用化を目指す
- 「自動運転移動サービスを中心とした地域公共交通のDX推進に係る連携協定」を5者で締結し、取り組みを開始



2021年度～2022年度の取り組み

今後の取り組み

「安心」・「快適」の追求

■ 安全性向上に向けた取り組み

- 運輸安全マネジメント制度のもと、輸送の安全に関する取り組みを推進
- 路線バスへ通信型ドライブレコーダ・デジタルタコグラフを導入開始
- 災害時におけるバス一時避難場所としての使用に関する協定を東海大学と締結



路線バスへ導入を開始した通信型ドライブレコーダ・ドライブレコーダと、本装置から発信された危険挙動通知画面

■ 連節バス新規導入や路線新設

- 平塚駅(急行)横浜ゴム線開設
- 平塚駅(急行・東海大学1号館前)東海大学前駅線開設
- 相原駅～法政大学線への連節バス導入
- 相模大野駅・町田BC～東京ディズニーリゾート®線開設

■ 快適な移動サービスの提供

- マイクロツーリズム施策を展開
 - 1日フリー乗車券、土休日、同伴の方1名無料キャンペーン
 - 沿線施設・店舗とタイアップし、割引券等をつけたモデルコースを案内するパンフレット「神奈中バスでお出かけしませんか?」配布
 - お花見プランなど観光タクシーの展開
- タクシー配車アプリ「GO」の利用促進

- 路線バス全車両への通信型ドライブレコーダ・デジタルタコグラフ導入完了
 - 点呼支援システムと連携し、乗務日報を自動作成・ペーパーレス化
 - 危険挙動通知機能を乗務員教育へ活用
- 浸水想定区域に所在するバス営業所の車両避難計画を策定



ドリームハイツ線への連節バス導入イメージ

- 平塚駅(急行・ツインシティ大神)本厚木駅線など開設
- 戸塚BC～ドリームハイツ線へ連節バス導入

- 路線バス運行情報サービスへのアクセス強化
 - 路線バス停留所へのQRコード設置
 - 乗換案内サイトとの連携
- バリアフリー法対応車両の導入推進



路線バス停留所QRコード設置イメージ



2021年度～2022年度の取り組み

今後の取り組み

地球環境の保全への貢献

■ 脱炭素社会の取り組み

- EVバスを新規導入
平塚市・横浜ゴム㈱と連携して導入、
環境負荷・運用コストを検証開始



平塚駅(急行)横浜ゴム線で
運行を開始したEVバス

■ 循環型社会の取り組み

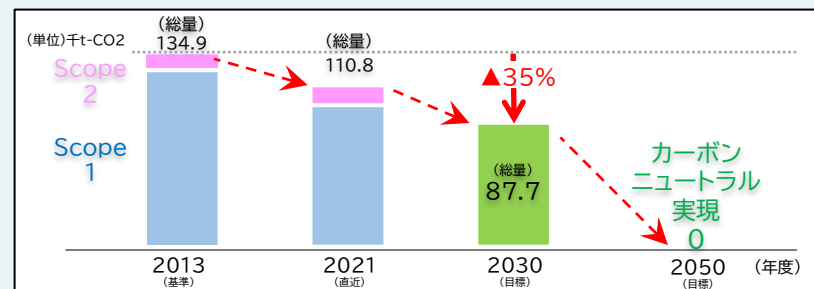
- 小山マテリアルリサイクルセンターの開設
使用済みペットボトルを原料にペットボトルA級フレークを製造開始



(左) ㈱アドベル 小山マテリアル
リサイクルセンター
(右) 製造したA級フレーク

- 神奈中グループのカーボンニュートラル実現に向けた
長期目標・ロードマップに基づき、取り組みを強化

- EVバス、EVタクシー導入推進
- 事業所のLED照明化など省エネを推進



神奈中グループのCO2排出量実績および目標

持続可能なまちづくりへの取り組み

■ UR都市機構と包括連携協定を締結

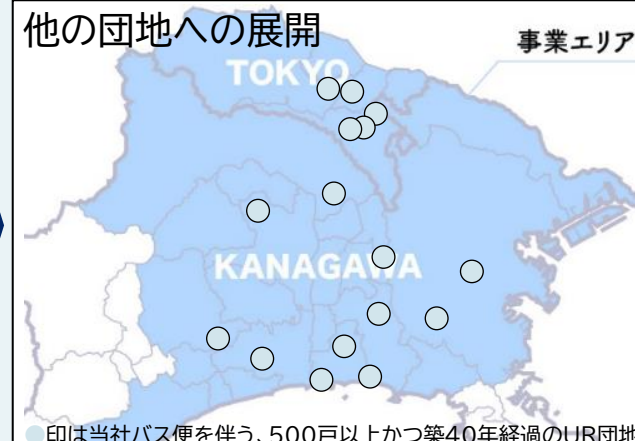
2022年3月包括連携協定締結



浜見平団地で、コミュニティ活性化等に向けた取り組み推進



イベントの実施



2021年度～2022年度の取り組み

今後の取り組み

地域社会の課題解決の取り組み

■ 子育て支援の取り組み

- ・ スイミング本厚木校・学童保育「ASHITA∞キッズ本厚木」をオープン



スイミング・体操教室本厚木校



ASHITAキッズ本厚木

■ 空き家対策への取り組み

- ・ 中古住宅の買取再販事業へ参入
出張不動産相談会を開催し、仕入を強化



ライフ/ワークスタイルの変化に対応したサービスの提供

- ・ 神奈中テニススクール天神校を藤沢市にオープン
- ・ 玄関手洗い場、ワークスペースなど、“新しい生活様式”に対応した戸建分譲、VR内覧会の実施



神奈中テニススクール天神校

■ 子育て支援の取り組み

- ・ 「小児IC運賃の一律50円」を開始
(土休日・学休期間のみから全日へサービス拡大)
- ・ 通学定期券の割引率を拡大
- ・ スポーツプラザ神奈中平塚に児童預り施設を開設
スイミングスクール各店舗の日曜営業開始
- ・ 公立小学校での水泳授業の受託拡大
児童への水泳教育の質向上、教員の負担減、
将来は自治体の設備投資や維持管理費削減への寄与を想定

■ 高齢者・労働者の健康維持への取り組み

- ・ 自治体から介護予防事業、
企業からヘルスケア事業を受託



介護予防事業の展開

- ・ MaaSアプリを活用して
オフピーク時間帯の運賃割引チケットを発売
- ・ フィットネス店ライフティック平塚を
24時間営業化
- ・ 飲食店等のリニューアルの実施



MaaSアプリでオフピーク時間帯の運賃割引チケットを発売
〔画像は2021～2022年度実証実験時のもの〕

(単位:百万円)

	前中期経営計画年度			本中期経営計画年度		
	2018年度 (実績)	2019年度 (実績)	2020年度 (実績)	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (業績予想)
売上高	114,809	112,702	90,915	97,777	103,865	109,500
営業利益	6,606	5,329	△ 5,940	1,008	4,323	4,790
経常利益	6,789	5,470	△ 5,354	2,586	4,910	4,770
親会社株主に帰属する当期純利益	4,089	2,044	△ 8,516	1,838	1,149	3,040
売上高営業利益率	5.8%	4.7%	△ 6.5%	1.0%	4.2%	4.4%
EBITDA	12,986	12,088	1,129	7,617	10,197	10,380
有利子負債	52,410	55,822	63,794	57,686	59,143	70,075
有利子負債／EBITDA倍率	4.0倍	4.6倍	56.5倍	7.6倍	5.8倍	6.8倍
設備投資額	8,679	13,480	7,698	6,125	8,793	14,210

- コロナ禍からの回復の遅れや、飛躍期に向けた設備投資の実施により、財務健全性回復の目安としていた経営指標については、現時点では未達となる見通しですが、引き続き体質変革の取り組みを推進し、指標の達成を目指してまいります。

財務健全性回復の目安 (経営指標)	2023年度 (目安)
売上高営業利益率	6.0%以上
有利子負債／EBITDA倍率	5.0倍以下

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

<お問い合わせ先>

神奈川中央交通株式会社 経営戦略部 IR担当 TEL:0463-22-8894